



校長 坂本 晋

# みたけが原便り

## 第2回 「名を授かるということ」

(4月6日入学式講話)

～前略～

さて、晴れて盛岡中央附属中の門をくぐった皆さんが、これから充実した有意義な学校生活を送ることを願い、ひとつ話をします。

只今の入学許可の呼名を聞きながら思ったことがあります。それは、あらためて39名全員、皆さん一人ひとりが素晴らしい名前を持っているなあということです。

皆さんは、高い志を抱いて附中の門を叩きました。それぞれが、今はまだ漠としたものであっても、難関大学に進学して学問研究に打ち込みたい、将来はこういう仕事について社会に貢献したいという夢を持っています。わたしたち教職員は全力で皆さんの夢の実現をバックアップすることを約束します。

ただ、ここで知っておいてもらいたいことがあります。それは、大学を目指し職業を選ぶということはとても大事なことです。実はそれがゴールではないのだということです。

さて、そこで皆さんに問いかけます。「汝、何のためにここにありや」「汝、何のために中央附中にありや」

皆さんの求めるべきは、「自分らしさを磨き、よりよい大人になる」ことにあります。では、よりよい人間とはどういう存在なのか。難しいことはありません。中学生になったばかりの皆さんが目指すべきは、皆さんが今日この場で呼名された名前のような人間になることなのです。

十二年前、親御さんは、誕生したばかりの赤ちゃんを前に、世界中にただ一つの名前をつけようと一生懸命考えました。そこにあるのは皆さんをかけたがえのないものと思い、幸せを祈る限りない慈しみの気持ちです。人は名前をつけ

られた瞬間に人格を持ち、取り替えのきかない世界で唯一無二の存在になります。これが、命名、名付けるという行為が持つ尊い意義なのです。

あの素敵な人は誰だろうと思った時、人はその名前を知ろうとします。そして、ああそうなのかと納得します。皆さんは、どうかこれから盛岡中央附属中、そして盛岡中央高校を舞台として、名前のような自分になるのだという価値ある大きな目標に向かって邁進して下さい。それが皆さんの「研鑽努力」です。新しい時代の幕開けとともに、切磋琢磨しながらそれぞれの個性を伸ばし、人間として健やかに成長していくことを期待します。

～後略～

(さかもとすすむ/盛岡中央高校附属中校長)

